第２回司書教諭交流会講演

「カウンセラーの目から見た中学校と高等学校の図書館の違い」

これからの図書室利用の在り方～1つの提案～

Ｊ.M.C.日本こころの健康センター代表・スクールカウンセリングスーパーバイザー

鈴木　徳実

１．中学校での〈現状〉

「集団が苦手な」・「学級で孤立している」・「1人空間が楽な」・「オトナと一緒に在るのが安定している」・「アスペルガー的な」・「ＡＤＨＤ的な」・「ＰＴＳＤのある」・「ＬＤのある」・「さまざまなストレスを持っている」生徒たちが不登校になるのを防ぐために、中学校では校内に別室をもうけて、カウンセリングを含む予防的対応をしているが（保健室登校・個室登校など）、生徒にとってその場は安心・安全・安定かつ安らげる場ではない。

ところが、図書館は生徒たちにとって教養的雰囲気が感じられて、学習を刺激する校内で最高の学究的空間と映り、安心・安全・安定を取り戻すことができるようだ。

このような生徒を含めて、教育学究刺激の環境としての図書室の利用を考えたい。
そのためには、学校における司書教諭の新しい役割　･司書教諭の独立（これまでの学校の教諭とは異なる役割）が必要になる。学究感覚を提供する教育的･教養的場として図書館を位置づけてほしい。

そして、様々な生徒のサインを見逃さないような努力が大切である。

２．カラダに観るサイン

生徒のカラダから感じ取るサインについて話したい。

まず、顔からは；①目…　・まばたきが多い・目の下がマヒ（ピクピクする）

・アイチック（片目、両目）・眼球がユレル

・目を開けにくそうにしている（マブシそう）

・目が大きく開いている（ドウコウが大きくなったり、小さくなったり）

②鼻…　・勝手に大きくなったりする　・鼻息が荒い

③口…　・口が勝手にユガム

④顔全体…　・いつも笑っているような症状　・いつもこわばっているような症状

・眉毛が勝手に上下に動いている

首からは…　・首がどちらかに傾いている　・首が硬直している（顔を動かす時震えている）

肩からは…　・肩のバランスがおかしい　・肩がつりあがっている

手からは…　・いつも何かをたたいている・深ヅメ（特にツメカミによる）・手のひらの汗が多い

足…　・ビンボウユスリが多い　・体全体がゆれているような症状

＜参 考＞

ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）
(Attention-Deficit Hyperactivity Disorder)

◎脳の神経生理学的状態
◎脳の「抑制」・「制御」を司る部分がうまく働いていない状態
◎神経伝達物質のアンバランスから起こると考えられている医学的な状態
◎ＡＤＨＤを病気とは呼ばない立場が多い！
◎病気ではないが､医学的な治療を含めたパラメディカルな取り組みが必要！ ↑
効果を及ぼす状態
◎オトナが気をつけて観察しなければならない幼児期から始まる状態
◎ＡＤＨＤの主な症状
不注意　　多動性　　衝動性
脳の抑制のメカニズムの障害
行動　　感情　　注意　　思考　etc に影響するので個人差が大きい。
◎診断と治療について
1．コドモの生育歴を調べる。
2．母親の心理状態を調べる。
3．コドモのしたいようにさせて障害の度合いを観察
　ex．遊び方、興味の持ち方、行動の様子、対人関係のとり方
4．コドモの脳波、心電図、血液等の検査　　いくつかの心理検査
5．学習障害(ＬＤ)についての検査
　・知能検査　　・言語学習能力検査
6．親の接し方の工夫
　コトバでのオドシや傷つけをしない。
7．学校での様子観察
8．場合によっては薬物服用（抗精神薬）
9．学習に対する補助的配慮
10．コドモへのカウンセリング・ 母親へのカウンセリング

ＰＴＳＤ（Post-Traumatic Stress Disorder）

〔ＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）とは？〕
瀕死の重傷を負うような出来事や、身体に迫る危険をｃｌｉｅｎｔ自身が体験したり、目撃したり、目撃したり、直面したりしたことによって、強烈な心的苦痛・不安・不眠・悪夢・恐怖・戦慄などに悩まされる症状を持つこと！

〔ＰＴＳＤの初期〕
１９８０年、ＤＳＭ－Ⅲ（アメリカ精神医学会）の中の一つの病態として提示された。
あらゆるこころの問題にトラウマは存在していて、歴史的にも同様とされている。

〔ＰＴＳＤの大きな要因〕
戦争…多くの人に長期影響　天災…消し去れない歴史　人災…人間の愚かさと古さ

〔ＰＴＳＤのセラピー（過去）〕
加持祈祷・インチキ療法・迷信に依存

〔ＰＴＳＤの特徴〕
・通常の人間の体験（ たとえば、単なる死別、慢性疾患、ビジネスの失敗、婚姻上の問題などの常識的体験）とは、異質のもの。
・ストレッサー（ストレスの原因）が、ほとんどすべての人に強烈な苦痛を与える。
・体験後、強烈な不安、恐怖、無力感が生まれる。

〔トラウマの種類〕

・人間の生命や体に深刻な脅威

・自分の子供、配偶者、身近な親族、身近な友人に対して深刻な脅威・害

・家庭あるいは、共同体の突然の崩壊

・自分以外の人が事故あるいは暴力のせいで重傷を負った、あるいは殺害された事件の目撃

・　親友あるいは、家族に対する、ひどい脅威や害

（ex．親友の子供が誘拐された、拷問にあった、殺害された、etc）

〔トラウマへのｃｌｉｅｎｔの反応〕

・トラウマを心の中で再現　・トラウマを避けて思い出さないようにする（感情をコントロール）

〔ＰＴＳＤの５つのＦＡＣＴＯＲ〕

〈ＦＡＣＴＯＲ Ⅰ〉・通常の人間の体験を超えた出来事を経験したことがあること

〈ＦＡＣＴＯＲ Ⅱ〉・トラウマの再現（１つ以上）

１．過去のトラウマの苦痛な思い出が、時を選ばすこころの中で再現

２．苦痛なトラウマの夢を繰り返し見る。

３．フラッシュバック

４．過去のトラウマ体験と似たような出来事に遭遇すると心理的苦痛を感じる。

〈ＦＡＣＴＯＲ Ⅲ〉・トラウマに関連する刺激の完全回避

一般的反応のマヒ（３つ以上）

１．トラウマに関連する考えや感覚を極力避けようとする。

２．トラウマを思い起こさせる行動、状況を避けようとする。

３．トラウマの重要な局面を思い出すことができない。

４．重要な活動に関心をなくしてしまう。

５．他人から引き離されたような感じがする。

６．愛情の範囲が制限される。（ex．恋愛感情をもてない）

〈ＦＡＣＴＯＲ Ⅳ〉・トラウマの覚醒感が強まる

１．寝つきが悪い、すぐ目が覚める。

２．怒りっぽい、怒りが暴発する。

３．集中できない。

４．過度の警戒心

５．ささいなことにも大げさに驚く。

６．トラウマを象徴する光景に出会うと心因反応が現れる。

〈ＦＡＣＴＯＲ Ⅴ〉

・　ＦＡＣＴＯＲ Ⅱ、ＦＡＣＴＯＲ Ⅲ、ＦＡＣＴＯＲ Ⅳが１ヶ月以上続く。

〔アスペルガー症候群〕
(Asperger syndrome)

〔第一基準〕
（a）対等の仲間関係を作る能力に欠ける。
（b）対等の仲間関係を作ろうとする意欲に欠ける。
（c）人からの社会的サインの理解に欠ける。
（d）社会的・感情的に適切ではない行動

〔第二基準〕
（a）身ぶりを示すことが少ない。
（b）不器用／ぎこちないボディランゲージ
（c）表情が乏しい。
（d）表現が場面に合わない。
（e）視線が奇妙で、よそよそしい。

◎親にできること
- 遊びの始め方・続け方・やめ方
- 順応性・助けあい・分かちあい
- 仲間との遊びをのがれる。
- すべきだったことを明確にする。
- 家に友達を呼ぶ。
- 子どもをクラブに入れる。

◎教師にできること
- ほかの子どもの行動を手掛かりにさせる。
- 互いの協力が必要なことを行う。
- その子どもへの接し方の手本となる。
- 先生以外にも助けを求める手段を教える。
- 頼りになる友人関係を育てる。
- 休み時間の校庭にも注意を払う。
  - 二面的な性格の存在に気をつける。
  -

〔ＬＤ〕

　学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

　学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

（文責　冨田）

第２回司書教諭交流会の報告とアンケートの結果

佐野高校　司書教諭　冨田　忍

平成１５年度より各府立学校では法令に基づき、１２学級以上の学校に司書教諭の発令が行われてました。これを受け本研究会では、府立高校で発令された司書教諭の方々の交流会を、２００６年12月にはじめて持ちました。（<参考>参照）

そこで、出席者から定期的な開催のご要望が多くでましたので、私学も含めた大阪府内の高等学校の司書教諭の皆様を対象に、大阪信愛女学院高等学校の会議室をお借りして２回目の交流会を、２００７年１２月２１日（金）に開催しました。

最初に、中学校と高校でカウンセラーとして活躍されておられる　鈴木　徳実　氏に、生徒の動向に関して中学校と高校の図書館の相違についてお話をしていただきました。

今後の図書館のあり方にてに対する有意義な提言でしたので、出席者からも積極的な質問・意見がでました。詳しくは別掲の講演のまとめをご覧ください。

その後、お集まりいただいた方々の間で、現状について情報交流と意見交換をいました。特に、各私立学校の図書館と司書教諭の位置づけ・仕事内容について、詳しく説明をしていただきました。別紙のアンケートの結果も含めて全体的に見てみると、司書教諭が図書館に関わる割合・校内での役割は**私高府低**（府立高校よりも私立高校のほうが高い）であることがわかりました。

講演と交流会の後、独立別棟５階建ての大阪信愛女学院図書館を見学しました。
１７万を超える児童書から専門書までの幅広い豊富な資料を所蔵して、幼稚園から短期大学までの「総合図書館」として、また、卒業生・保護者さらに広く一般の方々にも利用していただいているとのことです。さらに、２００６年度の全体の貸し出し冊数が約７５，０００冊で、１人あたり２９冊借りている実体に感心しました。

最後に、同時に実施したアンケートとその結果を掲示します。

<参　考>　司書教諭の職務について

大阪府教育委員会からは、以下のとおり通知されています。

（教委教務第８５７号　平成１５年２月１４日付け）

○　司書教諭は、学校図書館教育及び読書活動が学校全体で協力して行われるよう、
　他の教職員等との連携・協働を図るコーディネーターとしての役割を担う。

○　司書教諭は、主に学校図書館の教育指導的業務を行う。

○　但し、司書教諭が、校務の都合上図書館以外の分掌にいる場合は、司書教諭は

読書活動推進のアドバイザー的役割を担う。
司書教諭に関するアンケート

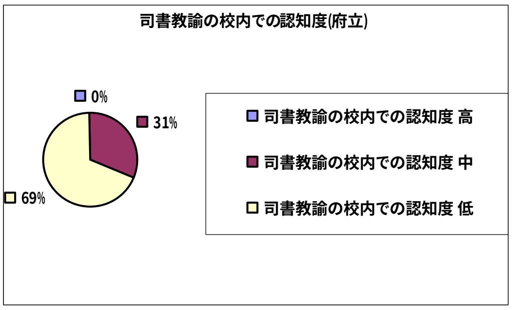
学校名		
司書教諭の発令状況	発令されている	発令されていない

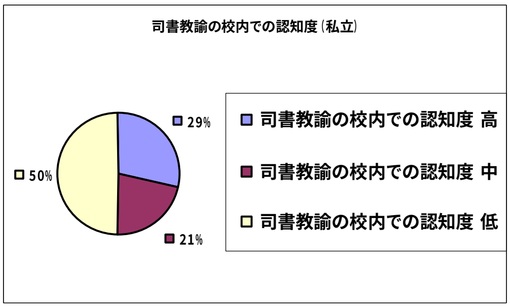
司書教諭が発令されていると答えられた学校にお尋ねします。

発令された司書教諭の人数	
司書教諭の校内での認知度 高　中　低	内容
学校図書館との関わり 高　中　低	内容
司書教諭のお名前と教科	司書教諭のお名前と教科
雇用・勤務形態	雇用・勤務形態
校内での役割	校内での役割

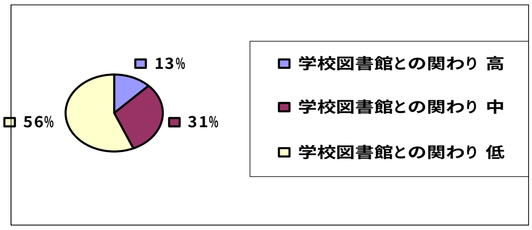
アンケート結果（グラフで表示）

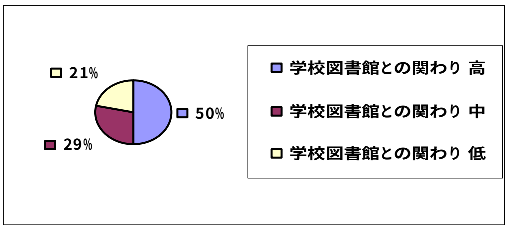
司書教諭の校内での認知度



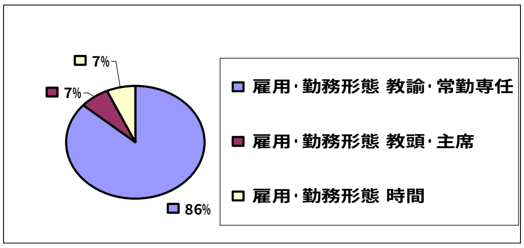


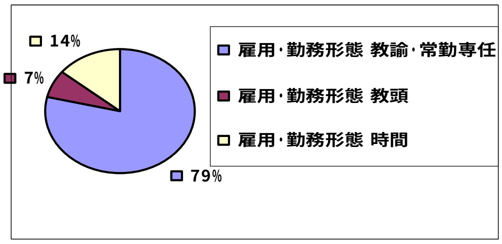
学校図書館との関わり



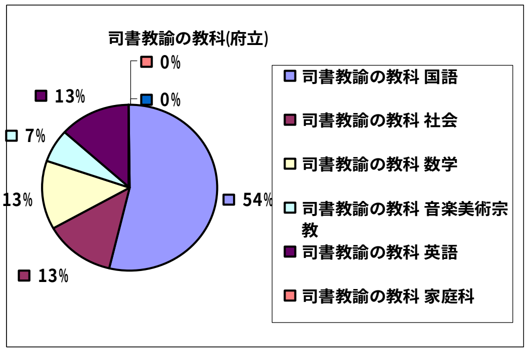


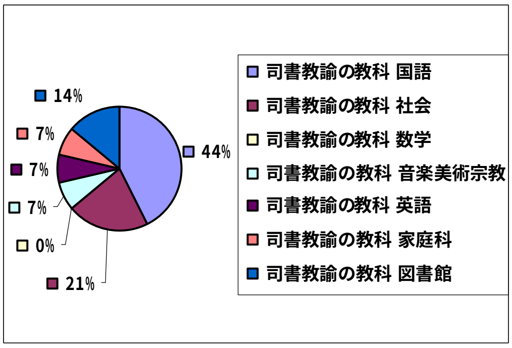
雇用・勤務形態



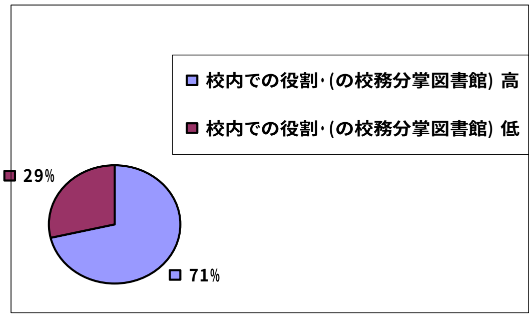


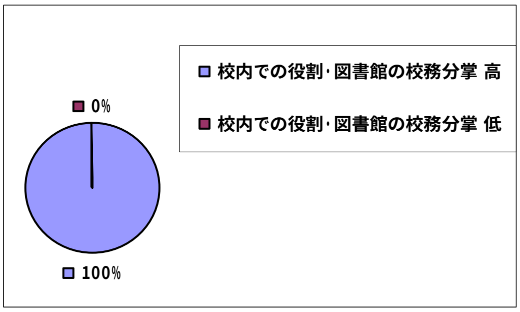
司書教諭の担当教科



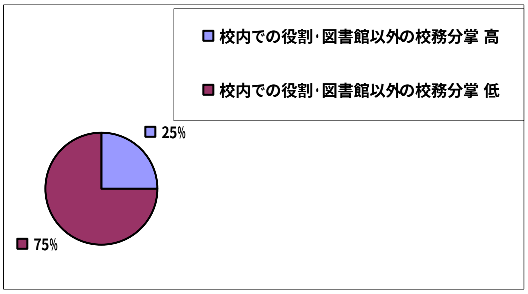


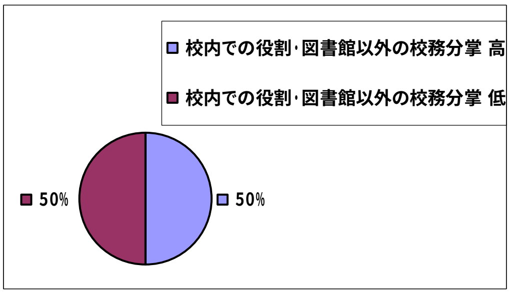
校内での役割（司書教諭の校務分掌が図書館）





校内での役割（司書教諭の校務分掌が図書館以外）





　交流会に参加してくださった約３０名の結果です。（公立と私立はほぼ半々でした）
大阪府内の高等学校での司書教諭の現状が、これで多少は類推できると思います。

　アンケートに協力していただいた皆様に感謝いたします。

　そして、会場を貸していただいた大阪信愛女学院の関係者の方々にお礼を申し上げます。